旧田代家住宅で展示されている作品。学生は展示空間としての伝統建築活用にアイデアを凝らした＝浜松市天竜区二俣町

伝統建築活用アイデア作品

静岡文化芸術大生 天竜区で展示

静岡文化芸術大と浜松市は7日、同市天竜区の国登録有形文化財「旧田代家住宅」で作品展「りゅうりゅう展」を始めた。デザイン学部デザイン学科匠（たくみ）領域の3年生9人が、伝統技法を用いて編み出した作品が風情ある邸宅内で個性を発揮している。

田代家は天竜川で木材搬出を手がけ、江戸時代に栄えた筏（いかだ）問屋として伝わる。旧住宅は1859年に再建されて残る。作品制作は同大と市の文化財建築物活用に関する共同研究の一環として行われた。学生は地域の歴史や自然から得た着想を基に染物や木漆芸、織物の作品を考案し、展示空間としての伝統建築や庭園の活用法に知恵を絞った。

担当教員の同学部の新妻淳子准教授は「一般的なギャラリーとは異なる空間での表現を考えた作品になった」と話す。屋内や庭には、さまざまな素材や色彩の展示物が並ぶ。素材特有の質感を生かした織物作品「晴々（はればれ）」などを作った乾馨瑠那（かるな）さん(21)は「多くの作業をこなす中で、遠近感を考えた作品作りを進めた」と話す。

入場無料。午前10時～午後4時。9日は午後2時までで、午前9時半から公開講評会が開かれる。

静岡新聞

©静岡新聞社　無断複製転載を禁じます